

日本在宅 医学 会誌

Vol.7 No.1

The Japanese Academy of Home Care Physicians

●巻頭言

在宅医学，在宅医療の究極の目的—自分の住み慣れたところで，健康に生涯を全うすること—

佐藤 智

●第7回日本在宅医学会

○特別講演 急性期病院と在宅医療連携

武藤 正樹

○ワークショップのための基礎講座 I

地域医療連携のシステム化と在宅医療の環境の変化—求められる効率性と総合性への意識改革と制度的背景—

片山 壽

○ワークショップ I

ケア会議の重要性，難病患者さんの症例から

第7回日本在宅医学会大会“がっぷり四つの医療連携”2005.2.11 ケア会議—最高意思決定機関—の活用

大学病院における退院支援：院内で開くケア会議

ケア会議—最高意思決定機関—の活用

菅原 由美
田中 茂樹
小笠原喜美代
和田 忠志

○ワークショップ II

尾道市医師会方式によるケアカンファレンスを軸にした医療連携・・・急性期病院の立場から・・・

地域医療連携における急性期病院と在宅の機能分担

入院から始まる医療連携

第7回日本在宅医学会大会の抄録「介護保険制度におけるケアマネジャーの役割と医療との連携について」

アフガニスタンの在宅医療と医療連携

山脇 泰秀
片山 壽
中山 康子
白木 裕子
レシャード・カレッド

○ワークショップ III

災害時の医療連携—新潟中越地震災害の経験から—

在宅医療と介護サービスの連携による総合支援体制について

医療的危機管理と非常時の医療連携

槇島 敏治
レシャード・カレッド

○病院医のための連携実践セミナー①

ALSと人工呼吸器—当事者から医療に求めること—

○病院医のための連携実践セミナー②

在宅ホスピスケアからみた継続医療

玉井 照枝，日野真理子，

○教育講演 I

医療連携のはざままで重症者はどこに行く—社会システム設計論から

○教育講演 II

若年障害者の在宅医療 求められる地域連携

太田 秀樹，

○ランチョンセミナー I

がん疼痛治療のエッセンス～「WHO方式」とオキシコンチンRを使いこなすために（解答編）～

○ランチョンセミナー II

在宅における患者にやさしい気道管理（気管切開，閉鎖式気管内吸引，FHME）～病棟から在宅へ～

吉野 浩之
佐藤 智
丸林 美起
岡部 慎一

○ランチョンセミナー III

在宅医療における睡眠時無呼吸症候群

○研究報告（一般演題）

日本在宅医学会認定専門医制度規程…………… 93

投稿承諾書…………… 99

投稿規定…………… 100

編集後記…………… 103

日本在宅医学会

● 卷頭言

在宅医学，在宅医療の究極の目的
－自分の住み慣れたところで，
健康に生涯を全うすること－



佐藤 智 日本在宅医学会会長

最近，地球規模の大きな風水害，地震や，戦争，テロ事件など人為的なことにより，多くの方々の「生命」が失われている。

私どもが現在，健康を与えられていることは，不思議な位であるが，いつかは皆「死」を迎える。果たして私は，そのための心の準備は出来ているのだろうか。「死」ですべては終わるのか，「死後の世界」はあるのだろうか。

私は長年，ご自宅で「がん」などでなくなる方々のご最期を看取ることをしてきた。往診に行ってベッドの傍らで，共に時間を過ごしていると，患者さんから「私が死んだ後，私は一体どうなるのでしょうか。それを見極めなければ死に切れません」と問いかげられることがある。私はその患者さんのお気持ちをうかがいながら，ゆっくりとご一緒に，静かな「とき」をもつ。

ある方は，いろいろと考えられた末に病床でキリスト教の洗礼を受けて，平安のうちに逝くなられた。ある方は，熱心な仏教徒で，最後まで仏像をベッドの上で彫られながら息を引きとられた。それらは小さい「人間の自然で，健康な死の姿」である。最近言われている，spiritual well-beingをまっとうされた健康な姿である。

このspiritual well-beingということは最近日本でもいろいろな分野で話題になりつつある。この概念は何回か世界保健組織（WHO）などで提唱されたことである。（以前，本欄で，WHOで決定し，日本に議案が廻って来たとして申し上げたのは誤りでした）

先日，都内の大きな書店へ行き，「医療・精神」のコーナーに，「スピリチュアル」という題のついた本が沢山並んでいるのに驚いた。1年前にはほんの僅かであった。

人間が「生きそして死んでゆくこと」を真剣に考えるとき，このspiritualな問題を抜きにすることは出来ない時代になった。しかし，日本の医療体制の現状をみると，まだ「道は遠い」と言わざるを得ない。

私は「在宅で死を迎えることの究極の目的」は，このspiritualityの完結にあると信ずる。